

野外活動施設の今後のあり方について

1 現状と課題

教育委員会が所管する野外活動施設のうち、似島臨海少年自然の家は、令和 5 年度に企画総務局へ移管し、似島歓迎交流センターとして令和 6 年度のリニューアルオープンに向けて再整備を行っているが、青少年野外活動センター・こども村及び三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンターは、耐震化対策や老朽化対策が課題となっているほか、三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンターの敷地は土砂災害特別警戒区域に囲まれ、建物の一部も同区域に指定されているなどの課題を抱えている。

また、本市の野外活動施設の主な利用者である 14 歳までの年少人口は年々減少しており、こうした傾向は今後も続くものと見込まれている。

2 施設の特徴及び利用状況

区 分	青少年野外活動センター・ こども村		三滝少年自然の家・ グリーンスポーツセンター			
主 な 特 徴	広域都市圏内最大の収容規模を有し、大規模校から小規模校まで幅広く受入れている。また、地元と連携した利用者との交流を行っている。		市内中心部から近く、屋外アスレチック施設（無料）については、土日・休日のファミリー層の利用が多い。			
令和元年度 宿泊利用者数	3 万 6,680 人 (日帰りを含む総利用者 8 万 3,897 人)		2 万 507 人 (日帰りを含む総利用者 12 万 4,973 人)			
	内 訳	幼稚園・保育園	1,628 人	内 訳	幼稚園・保育園	4,102 人
		小学校	20,419 人		小学校	5,878 人
		(うち広島市立学校	19,807 人)		(うち広島市立学校	2,616 人)
		中学校	3,190 人		中学校	1,032 人
		(うち広島市立学校	2,606 人)		(うち広島市立学校	384 人)
		子ども会等少年団体	5,058 人		子ども会等少年団体	6,499 人
	その他	6,385 人		その他	2,996 人	

【参考】近隣施設の状況

本市を含む県内の小・中学校の多くが、集団宿泊体験活動の場として上記 2 施設のほか似島臨海少年自然の家や広域都市圏内にある国立江田島青少年交流の家を利用している。

区 分	似島臨海少年自然の家 (似島歓迎交流センター)		国立江田島青少年交流の家			
主 な 特 徴	海水プールを利用し、夏季の遊泳のほか、夏季以外の１１月末まではカヌー体験を行っている。		心身の鍛錬やチームワークを向上させるプログラムとして、カッター研修を行っている。			
令和元年度 宿泊利用者数	2 万 461 人 (日帰りを含む総利用者 4 万 4,733 人)		8 万 6,767 人 (日帰りを含む総利用者 10 万 9,551 人)			
	内 訳	幼稚園・保育園	108 人	内 訳	幼稚園・保育園	0 人
		小学校	9,261 人		小学校	17,205 人
		(うち広島市立学校	5,637 人)		(うち広島市立学校	2,715 人)
		中学校	3,086 人		中学校	21,701 人
		(うち広島市立学校	92 人)		(うち広島市立学校	16,107 人)
		子ども会等少年団体	5,568 人		子ども会等少年団体	15,619 人
	その他	2,438 人		その他	32,242 人	

3 あり方検討の方向性について

(1) 基本的な考え方

ア 各施設については、近隣施設との連携や役割分担も視野に入れ、より多くの利用者が確保できるよう、また、当該地域も含め広域都市圏全体の活性化に資するものとなるよう更新のあり方を検討する。

イ 更新のあり方の検討に当たっては、施設が立地されている地域の特性を踏まえつつ、宿泊受入体制の可否を判断するとともに、効率的な施設整備や運営を行うための民間活力の導入について検討する。

(2) 施設ごとの今後の方向性

ア 青少年野外活動センター・こども村

自然に恵まれた中山間地域に位置する施設であることから、小・中学校や子ども会等の少年団体による野外活動・宿泊体験の場として、その機能を維持するとともに、より幅広い年齢層の市民や近隣市町の青少年の利用が促進されるようサービス向上策について検討する。また、地域との連携・交流事業の展開、地域の人材を活用したイベント開催等により地域の活性化に資する取組等について検討する。

イ 三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンター

現施設の一部、またその周辺が土砂災害特別警戒区域であり、宿泊機能を有する施設の敷地として適切ではないことから宿泊機能は廃止し、受入体制については、今後の少子化傾向も踏まえ、近隣施設の活用を含め確保するとともに、屋外アスレチック施設を中心に市内中心部から気軽に利用できる日帰り施設として機能充実を図ることについて検討する。

4 今後の予定

令和5年度において施設ごとの再整備方針、ゾーニング、事業手法、概算事業費等をまとめた「青少年野外活動センター・こども村及び三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンターの更新に係る基本計画」を策定するとともに、令和6年度に向けて関連する経費について当初予算要求を行う。

5 スケジュール（予定）

令和5年度	基本計画の策定等
令和6年度	事業者公募の準備
令和7年度	事業者の選定
令和7～10年度	設計・建設工事
令和10～12年度	供用開始

1 施設の概要

青少年野外活動センター・こども村

建築年度：昭和 46 年度(こども村 昭和 55 年度)
 築年数：51 年(こども村 43 年)
 構造：鉄筋コンクリート造 3 階建ほか
 延床面積：4,159 m²(こども村 3,603 m²)
 定員：宿泊棟 336 人、テント 744 人

三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンター

建築年度：昭和 53 年度(グリーン 昭和 57 年度)
 築年数：45 年(グリーン 41 年)
 構造：鉄筋コンクリート造 3 階建ほか
 延床面積：3,624 m²(グリーン 309 m²)
 定員：宿泊棟 200 人、テント 96 人



似島歓迎交流センター（再整備中）

建築年度：昭和 59 年度
 築年数：39 年
 構造：鉄筋コンクリート造 2 階建ほか
 延床面積：8,973 m²
 定員：宿泊棟 204 人、コテージ 140 人

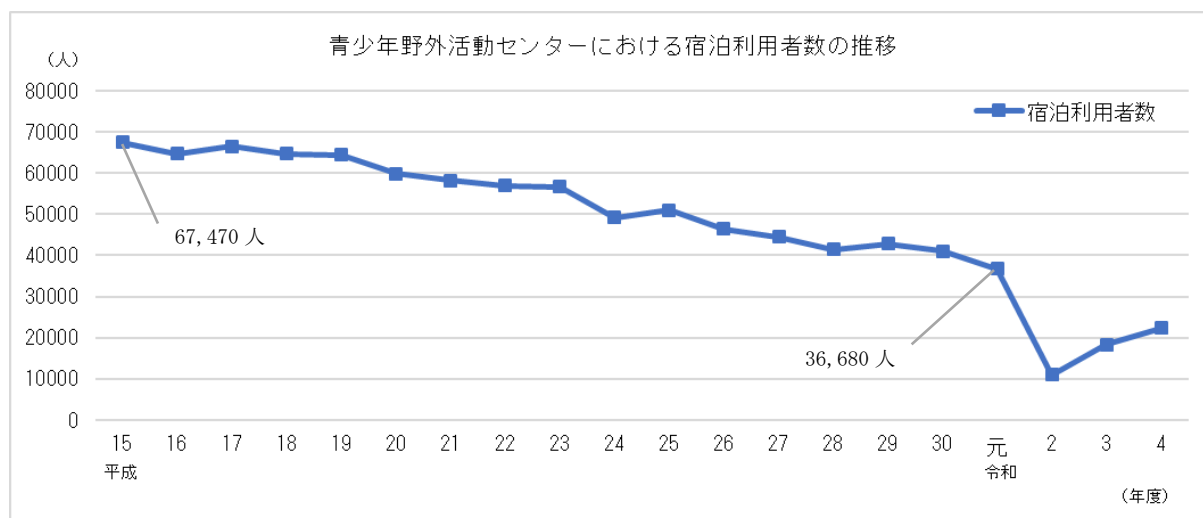
国立江田島青少年交流の家

建築年度：昭和 41 年度
 築年数：57 年(耐震工事実施済)
 延床面積：13,069 m²
 定員：宿泊棟 400 人

2 宿泊利用者数の推移

(1) 青少年野外活動センター

平成 15 年度の宿泊利用者数 67,470 人に対して、令和元年度は 36,680 人（新型コロナウイルス感染症による影響前）となっており、約 5 割減少している。



(2) 三滝少年自然の家・グリーンスポーツセンター

平成 15 年度の宿泊利用者数 29,746 人に対して、令和元年度は 20,507 人（新型コロナウイルス感染症による影響前）となっており、約 3 割減少している。

